様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2013～2014
課題番号：２５８８４０４２

研究課題名（和文）ベトナム人を対象とした新しい漢字・漢語学習指導法の提案

研究課題名（英文）Proposal of new teaching method of Kanji characters and compounds for Vietnamese learners

研究代表者
ＰＨＡＮ　ＴＨＩ・ＭＹ・ＬＯＡＮ（Phan, Thi My Loan）

大阪大学・言語文化研究科（研究院）・助教

研究者番号：１０７０８７０４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,400,000円

研究成果の概要（和文）：近年、ベトナムに進出する日経企業が増えるにつれて、ベトナムにおいても、日本国内においても日本語教育機関が増えてきている。しかし、ベトナム人日本語学習者は英語学習者等、他の言語の学習者に比べ、途中で止めてしまう人が多いように思われる。その原因の一つは漢字及び漢語学習の難しさにある。そのベトナム人によく見られる漢字学習に対する嫌悪感及び拒否感を解消するために、本研究課題では日本語漢字音と越南漢字音の間にある音韻的な対応関係を活用させて、ベトナム人が日本語の漢字語彙を効率的、且つ楽しく学習できる方法を工夫することにより、ベトナム人を対象とした日本語教育をより盛んなものになるよう努力した。

研究成果の概要（英文）：In recent years, the growing number of Japanese companies investing in Vietnam has led to the rise of Japanese language training schools and centers as a result. However, it is believed that in comparison to some other foreign languages such as English, Japanese classes have more dropout learners. One of the reasons is the difficulty in learning the Kanji characters and Kanji compounds. In order to banish the popular dislike and resistant feeling of learning Kanji of Vietnamese learners, in this research, the author has tried to progress the development of Japanese teaching to Vietnamese learners by making use of the relation of phonological equivalence of pronunciation between On-reading in Japanese and the sound of Sino-Vietnamese in Vietnamese, and to build a method which helps Vietnamese learners find it more effective and interesting in learning Kanji characters and compounds.

研究分野：ベトナム語教育

キーワード：漢字・漢語学習指導法　日本漢字音　越南漢字音

１．研究開始当初の背景

東アジア漢字文化圏に属する国々として、一般に日・中・韓三国がセットとして語られることがしばしばであるが、その歴史的、言語学的相互作用という文脈において、かつて漢字文化の一端を担ったベトナムの位置は無視できない。現在、ベトナムでは漢字が正書法として使用されることは確かにないが依然として夥しい数の「漢語」が使用されている。特に、歴史言語学的に見て日本漢字音（特に漢音）も越南漢字音も本来中国語中古音（特に唐代末期の音韻体系）を漢字と共に体系的にそれぞれの言語の音韻体系に取り入れたものであり、その対応には法則がある。

これまで、漢字・漢字語の教え方について書いた本は数多く出版されているが、ベトナムで使われているものはすべて日本人によって書かれたものであるため、前述の日本漢字音（音読み）と越南漢字音（漢越音）の間にある音声的な対応関係を考慮に入れずに、単純に画数が少ない字から画数が多い字という順で導入されているものばかりである。言い換えれば、ベトナムの日本語教育機関においても、漢字・漢字語の指導は非漢字圏の日本語教育機関と同様に扱われている。このことは漢字自体の難易度順に教えるよう工夫されているものの、漢字を正書法として使用している中国人でさえ日本語を学習するときに、容易であると同時に困難でもあるのが、漢字の学習であると訴えているから（茅本百合子、「日本語漢字と中国語漢字の形態的・音韻的差異が中国語母語話者による日本語漢字の読みに及ぼす影響」、2000)、漢字を正書法として既に使用しなくなったベトナム人にとっては尚更である。日本語の漢字には訓読みだけでなく、音読みもある。しかも、１字の漢字には１つの音読みをもつ漢字もあれば、2 つ以上の音読みをもつ漢字もあるから、漢字の学習は日本語習得上、最も難しいと訴える声をしばしば耳にする。問題はそこにとどまらず、それを理由に日本語の学習を途中で止めてしまう人や嫌悪感や拒否感を覚え続ける学習者も少なくない。ベトナムにおける日本語学習をより活発にするには、漢字及び漢字語（熟語）の指導法およびその教材を見直すべきではなかろうか。

２．研究の目的

本研究課題の目的は、ベトナム人日本語学習者の漢字・漢字語の学習に対する拒否感や嫌悪感を解消するために、日本漢字音と越南漢字音の間にある音声的な対応関係を活用した効率的、系統的、且つ学習容易な漢字・漢字語の指導法を提案することにある。漢字文化圏所属の言語を第一言語とする学習者が同文化圏の他の言語を第二言語として学習する際、「漢語」を手がかりとして飛躍的なコミュニケーション能力の向上を望むことが可能であり、その利点を十分に活用したテキストを開発することはベトナムにおける日本語教育にとって極めて重要なことであると考える。

３．研究の方法

（１）従来、ベトナム人日本語学習者によく見られる漢字・漢字語（熟語）の学習に対する嫌悪感及び拒否感はベトナム現地においても非漢字圏の国々と同様の漢字・漢字語の学習指導法が行われていることに起因すると判断されているため、日本漢字音と越南漢字音の間にある音声的な対応関係に基づき、学習者が卒業前に日本語能力試験Ｎ１に合格するといった現地の日本語教育機関が設定した到達目標に従って、導入漢字及びその漢字語を適当なレベルに分けた上で、各レベルにおいて、日本語の音読みとベトナムの漢越音が最も近いものから導入するように「導入漢字リスト」及び「導入対象漢字・熟語表」を作成した。

なお、上述の「導入漢字リスト」及び「導

入対象漢字・熟語表」を作成するために、国際交流基金編『日本語能力試験出題基準』（1994年発行）を基とし、日本語能力試験（漢字の問題）に関わる6種の参考文献及び現在ベトナムで最も多く使用されている2種の教科書を選んだ。

（２）日本語とベトナム語の両言語で使われる熟語の誤用を避けるために、従来の日本語能力試験４級から１級に及ぶ語彙リストから日本語とベトナム語の両言語で使われる熟語を選抜し、それらの意味・用法にある異同を考察した。

４．研究成果

（１）本研究課題は研究代表者の博士論文の延長線上に設定されており、ベトナム人を対象とした日本語教育をより盛んなものに発展させるには、上述の日本漢字音と越南漢字音の対応関係をいかに活用するかを考えて提案するものである。研究代表者は自分自身が漢字及び漢字語を習う際の過程を内省し、ベトナムの日本語教育機関で発表し確認したところ、ベトナム人日本語学習者が漢字及び漢字語を習う際に次の４つの過程を通して覚えることがわかった。

①当該漢字に当てはまる越南漢字音（漢越音）を覚える。

②当該漢字の意味を把握する。

③当該漢字の訓読みおよび音読みを知る。

④③で習った音読みを含む熟語のうち、当該学習者の日本語能力に相応しい熟語を習う。

（２）また、外国語を習うにあたって、その言語の語彙の数を多く知っていれば知っているほどそのことばを豊富に表現できると言っても過言ではない。しかし、日本語の語彙の多くは漢字と漢字の組み合わせでできており、2 字熟語が日本人の日常生活に多く出現しているため、このような種の熟語を初めて見た時にどのようにその読み方を判断するかベトナムの日本語教育機関の日本語学習者を対象に確認したところ、学習者は次の３つの過程を踏むことがわかった。

①それまで習ったそれぞれの漢字の音読みを思い出す。

②前に来る漢字の音読みを後ろに来る漢字の音読みに結合させてみる（もしもそれぞれの漢字に１つ以上の音読みがあった場合は、この過程に時間がかかる）。

③辞書等で②で結合させてみた読み方に合ったその熟語が載っているかどうかを確認する。

研究代表者も従来このような過程を経て漢字語の学習をしてきた。②での自分の判断が正しかった、つまり結合させてみた読み方に合った熟語が辞書等で最初に調べた時に、すぐに見つかる場合はよいが、そうでなければ、何度も確認をしなければならなくなる。そこで重要なことは、上述した過程を実行する上で最もポイントとなるのは、①でそれぞれの漢字の音読みをどれだけ思い出せるかということである。つまり、当該漢字の音読みがその越南漢字音に近ければ近いほど、反応時間が短くて済むが、逆に当該漢字の音読みはその越南漢字音からかけ離れるほど、反応時間が長くなる。そこで、研究代表者は博士論文で考察した日本漢字音と越南漢字音の韻母の間にある対応関係に基づき，それらの漢字を日本語母音ア/a/、イ/i/、ウ/u/、エ/e/、オ/o/の５つの対応関係に分けて配列した。また，各種対応の中に博士論文で考察した日本漢字音と越南漢字音の間にある韻母及び声母の配置基準に基づき，漢字の難易度順にステップ 1、2、3、4 の 4 つのステップに分けて導入することにした。なお，

その結果として，従来の４級から１級に及ぶ1、883字(うち、4級は80字、3級は165字、2級は746字、1級は892字）の漢字を「導入漢字リスト」に示しておいた。

また、熟語を導入するに当たっては、各ステップをレベル1、2、3の3つのレベルに分けることにした。そのうち、レベル1とレベル2に導入される熟語は日本語とベトナム語の両言語で使われるものとし、 レベル１の熟語はベトナム人によく知られ、よく用いられていると思われる熟語であるのに対し、レベル2の熟語はベトナム人にあまり知られていない、或いはあまり用いられていないと思われる熟語である。一方、レベル3で導入される熟語は日本語でしか使われないにも拘らず、日本語能力試験用にマスターしなければならないものである。

以上を基礎に、過去２年間、所属機関で日本人ベトナム語学習者を対象とするベトナム語教育に携わる中で、同対象者の日本語とベトナム語の両言語で使われる熟語の誤用を見かけることが多かった。ベトナム人日本語学習者にも同様な現象が起こっているのではないかと判断し、ベトナムの日本語教育機関で発表した際、やはり両言語で使われる熟語における意味・用法に異同があり、それを考察すべきとの指摘を受けたため、従来の日本語能力試験4級から１級に及ぶ語彙リストから日本語とベトナム語の両言語で使われる熟語を選抜し、代表的なものに関して意味・用法にある異同を考察した。

５．主な発表論文等

〔学会発表〕（計　１　件）

① ファン・ティ・ミー・ロアン、ベトナム人を対象とした新しい漢字・漢語学習指導法の提案、第9回ハノイ・ロンド（日本研究・ベトナム研究勉強会)、2014年3月8日、ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学（ベトナム）

６．研究組織

(1)研究代表者

ﾌｧﾝ ﾃｨ･ﾐｰ･ﾛｱﾝ　（PHAN, Thi My Loan）
大阪大学・言語文化研究科・助教
研究者番号：25884042